

2013.12.19

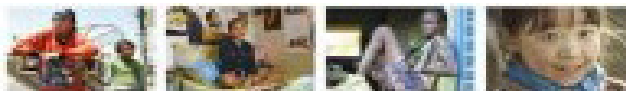
vol.28

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品

### それでも生きる子供たちへ



メディ・カレフ監督の「タンザ」は、大きな銃を手にゲリラ部隊の一員として戦闘にかり出されるルワンダの少年の物語。エミール・クストリッツァ監督「ブルー・ジブシー」は、窃盗団家族に生まれ、親から盗みを強要される少年を賑やかな音楽に乗せて綴る。HIV感染者を両親に持ち、生まれた時から HIV に感染し、「エイズ・ベイビー」と呼ばれいじめられている少女を見つめたスパイク・リー監督作「アメリカのイエスの子ら」。カティア・ルンド監督の「ブルーとジョアン」は、廃品を集めて小銭に換え自活するブラジルの兄妹の物語。ジョーダン・スコットが父リドリー・スコットと共同で監督した「ジョナサン」は、戦場でのショックで幻覚にうなされるフォトジャーナリストが体験する不思議な出来事を描く。イタリアのステファノ・ヴィネルツォ監督作「チロ」は、大窃盗団の最下層でたくましくも懸命に生きる少年の物語。そして最後を締めくくるジョン・ウー監督の「桑桑（ソンソン）と小猫（シャオマオ）」は、裕福だけど愛のない家庭に暮らす少女と、貧しい老人に拾われた孤児の少女が、一体のフランス人形を介して不思議な運命に導かれていく感動作。< allcinema >

“世界中の子供たちの窮状を救うため”という、イタリアの女優マリア・グラツィア・クチノッタの呼びかけに、ユニセフと国連世界食糧計画が賛同し、7カ国から7組8人の映画監督が参加。それぞれの国の子供たちの過酷な現実を、独自の視点で描き出したオムニバス・ドラマ。

『タンザ』

監督：メディ・カレフ

『ブルー・ジブシー』

監督：エミール・クストリッツァ

『アメリカのイエスの子ら』

監督：スパイク・リー

『ブルーとジョアン』

監督：カティア・ルンド

『ジョナサン』

監督：ジョーダン・スコット

リドリー・スコット

『チロ』

監督：ステファノ・ヴィネルツォ

『桑桑（ソンソン）と小猫（シャオマオ）』

監督：ジョン・ウー

原題 ALL THE INVISIBLE CHILDREN  
LES ENFANTS INVISIBLES

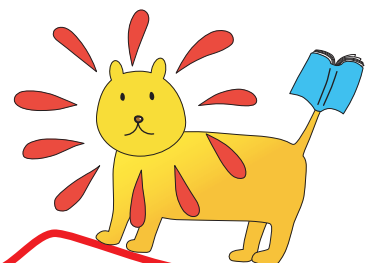
上映時間 130分

製作国 イタリア／フランス

制作年 2005年

< <http://asa10.eiga.com> >

エンドロール終了まで、  
席を立たないようにお願いします。



りぶらいおん©LSC

# 映画を読む

## 『それでも生きる子供たちへ』

|   |                        |              |         |
|---|------------------------|--------------|---------|
| 『世界の子どもたち』ユニセフ写真集                                     | ユニセフ写真集                | 岩波書店         | 748     |
| 『ぼくは13歳職業、兵士。<br>あなたが戦争のある村で生まれたら』                    | 鬼丸 昌也                  | 合同出版         | 369.4   |
| 『子ども兵士』<br>銃をもたされる子どもたち                               | アムネスティ・インターナショナル<br>日本 | リブリオ出版       | 367.6   |
| 『100円からできる国際協力4』                                      | 子どもたちを守る               | 汐文社          | 329.39  |
| 『国際社会のルール3』   | 差別のない世界をつくる            | 旬報社          | 319     |
| 『いま、地球の子どもたちは』<br>第1巻 売られていく子どもたち<br>第2巻 学校へいけない子どもたち | 本木 洋子                  | 新日本出版社       | 369.4   |
| 『目をとじれば平和が見える』<br>旧ユーゴスラビアの子どもたちの描く戦争                 | ユニセフ                   | ほるぷ出版        | 319.8   |
| 『アフリカのトットちゃん』   | 田沼 武能／写真               | 講談社          | 611.39  |
| 『子どもたちの笑顔のためにユニセフと歩ん<br>だ50年』                         | 日本ユニセフ協会社史刊行会／編著       | 出版文化社        | 369.4   |
| 『移民社会フランスで生きる子どもたち』                                   | 増田 ユリヤ                 | 岩波書店         | 372.35  |
| 『イラク湾岸戦争の子どもたち』<br>劣化ウラン弾は何をもたらしたか                    | 森住 卓                   | 高文研          | 369.36  |
| 『戦争取材する』<br>子どもたちは何を体験したのか                            | 山本 美香                  | 講談社          | 319.8   |
| 『輝く瞳 世界のこども』  | 田沼武能写真集                | 岩波書店         | 748     |
| 君のためなら千回でも  | マーク・フォースター／監督          | 角川エンタテインメント  | 778.253 |
|   | カーレド・ホッセイニ／著           | 早川書房         |         |
| 『裸足の1500マイル』  | フィリップ・ノイス／監督           | アットエンタテインメント | 778.271 |
|   | ドリス・ピルキングトン／著          | メディアファクトリー   | 933.7   |

誰でも昔は子供だった (K.M.)

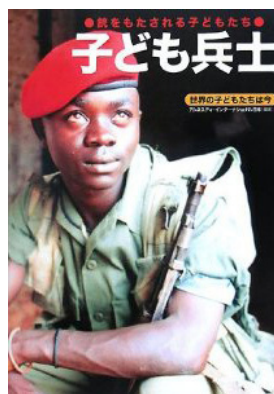
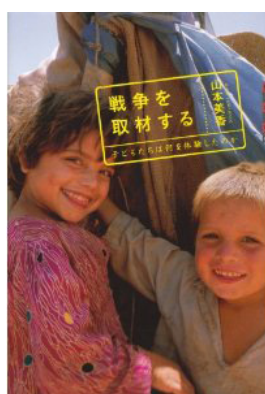
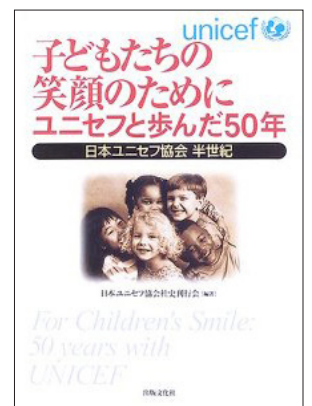
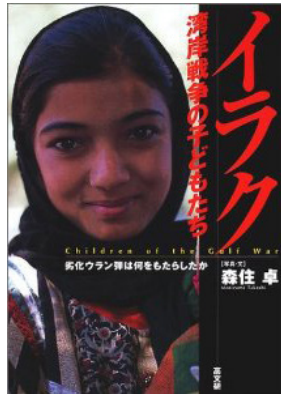
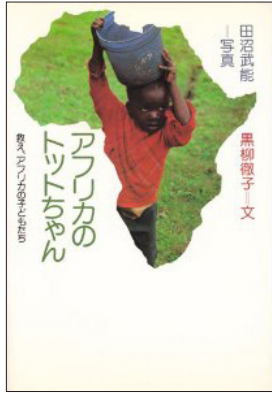
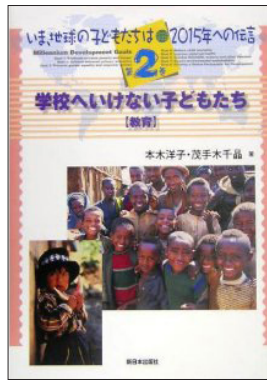
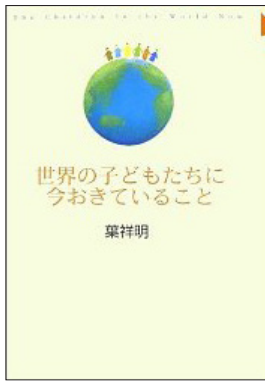
今回の上映作品は、ルワンダ・ボスニア・アメリカ・ブラジル・イギリス・イタリア・中国の7カ国から参加した7組8人の映画監督が、独自の視点から描き出した7編のドラマからなるオムニバス映画です。いずれのドラマも、大人社会の狭間で、過酷な状況を自らの生来の生命力のみで、乗り越えていくしかない子供たちが主人公です。

一応平穏な日本に暮らしてきた私は「この作品で描かれているような子供たちの日常が、今日も世界のどこかで現実起こっていること」を意識に登らせることはあまりなかったのですが、この作品を観終ったあと、「今の自分」「今の世界」「そして自分に出来ること」を、改めて考えるきっかけを与えられ

た気がしました。この作品から、結構厳しい現実社会の残酷さを突き付けられるのですが、第16回上映作品の『麦の穂をゆらす風』を観た後のように凹んでしまうことはありませんでした。子供たちの「ふいに見せる愛らしさ」「まぶしい笑顔」「ひたむきな生命力」が胸に焼きつきました。

“覚えている大人は少ないが、誰でも昔は子供だった”

この作品、サン・テグジュベリの言葉(星の王子さま)で締めくくられています。私は、「子供たちの笑顔を失わせないで！私たち大人が守っていかなくちゃ！誰でも昔は子供だった。子供が子供らしくいられる、そんな当り前の事が当り前にできる世界の為に、大人の私たちにはどんな事ができるだろうかを考えてほしい」というメッセージと受け取りました。



# シネマ・ド・リぶら 次回上映会のご案内

vol.  
29

## 道



H.26 1月16日(木)

① 10:30 ~ 12:30

② 14:00 ~ 16:00

二つの孤独な魂の遍歴を、旅芸人の日常の中に描き出し哀調を帯びたメロディーとフェリーニの名を世界に広めた傑作。

監督：フェデリコ・フェリーニ

製作：カルロ・ポンティ

音楽：ニーノ・ロータ

脚本：フェデリコ・フェリーニ

撮影：オテロ・マルテリ

出演：ジュリエッタ・マシーナ

アンソニー・クイン

リチャード・ベースハート

製作：1954年 イタリア モノクロ上映

時間：115分

### サロン・ド・シネマ

◆ 場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。  
映画の上映前後にご利用ください。

### 『道』テーマ展示

◆ 1月9日(木) ~ 1月21日(火)

◆ 場所：ポピュラーライブラリー

### 上映予定(毎回木曜日)

2月20日 『そして誰もいなくなった』

4月17日 『バグダッド・カフェ』

6月19日 『舞踏会の手帳』

※8月は図書館まつりで、特別上映会(有料)を開催する予定。

9月18日 『嵐が丘』

10月16日 『英国王のスピーチ』

12月18日 『武器よさらば』

※開催日および上映作品は、変更になる場合があります。

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター  
受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円(各回6名まで)  
申込みは、1週間前までに  
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、  
上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 090-6574-3312